

2026年度

お茶の水女子大学×日本芸術文化振興会

日本の伝統芸能

お茶の水女子大学は日本芸術文化振興会（芸文振）と協定を結び、多彩な教育研究プログラムを共催しています。本科目はその一環として開講され、伝統芸能の入門講座や舞台鑑賞、ワークショップを通して、日本が育ててきた芸能の伝統に触れる機会を提供してきました。今年度で四年目を迎え、これまで多くの学生が第一線の表現者や専門家と出会い、学びを深めてきました。

1966年に開場した国立劇場は再整備のため閉場し、主催公演は他劇場で続けられているものの、再開場の見通しは未だ立っていません。日本の伝統芸能は今、大きな転換点にあります。こうした時代だからこそ、一流の技芸を間近に感じ、舞台の裏側に息づく努力や工夫に触れながら、伝統芸能を未来へつなぐ視点を育むことが、本科目の大きな目的です。

授業には毎回、芸文振の現役職員の方が参加し、文化行政や舞台制作の現場について直接お話を伺うことができます。演劇や文化政策に関心のある学生にとって、将来を考えるうえで貴重な学びの場となるでしょう。学部生はもちろん、大学院生、高校生、留学生も歓迎します。多様な背景を持つ仲間とともに、日本の伝統芸能の魅力と可能性を探っていきましょう。

対象：本学大学生、大学院生、附属校生徒
留学生も歓迎します。

定員：30名

申込多数の場合は抽選となります

申込期間：～4.12（日）

詳細

詳細はシラバスもしくは以下の
「伝統芸能×未来」プロジェクト
HPよりご確認ください



伝統芸能プロジェクトHP

共催：お茶の水女子大学「伝統芸能×未来」プロジェクト
日本芸術文化振興会

お問い合わせ：dentogeino@cc.ocha.ac.jp

担当：埋忠美沙（お茶の水女子大学准教授）

申込期間：

～4.12